

V 特例適用専攻科における学位（工学）の取得

学士の学位を取得するためには、学位授与機構の審査を受けなければなりません。

本校の専攻科は平成26年度に特例適用専攻科に認定されたので、平成27年度からは特例適用認定専攻科の新審査方式によって学位申請を行っています。ただし、留学や留年等によっては従来方式による学位申請を行わなければならない場合も考えられるので、4月に行われる履修ガイダンスや、7月から8月にかけて行われる学位申請ガイダンスにおける説明を聞いたうえで科目履修や学位申請に臨んでください。

また、学位授与機構が発行する

- ・『新しい学士への途』
- ・『学位授与申請書類』
- ・『学位授与規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請案内』

等の冊子を必ず入手して、目を通しておくようにしてください。これらの冊子は学位授与機構に直接申し込むか、機構のホームページからダウンロードして入手することができます。

1 学位取得のための単位修得

高等専門学校の特例適用専攻科を修了見込みの学生が学位授与機構から学位を取得するためには、学位授与機構が示す「履修の方針」及び「単位修得の要件」を満たす必要があります。所属するコース担任あるいは指導教員から配布される「認定科目表」を参照し、体系的に単位を修得するようにしてください。

履修の方針

単位の修得にあたっては、専攻に係る専門の学芸を体系的に履修するとともに、幅広く深い教養および総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮して履修しなければなりません。

また、学修を総括する科目として、専攻科の最終学年において「学修総まとめ科目」を履修しなければなりません。

※「学修総まとめ科目」は本校専攻科では「特別研究Ⅱ」にあたります。

2 単位修得の区分

学位授与機構では、学位を申請する者が「履修の方針」の趣旨に適合するように単位が修得されているかを判断するために、次ページの図1のように、修得単位を「専攻に係る単位」と「専攻に係る単位以外の単位」の2つに大きく分け、さらに「専攻に係る単位」を専門的な内容の授業科目の単位（「専門科目の単位」）と専門に関連する授業科目の単位（「関連科目の単位」）に区分して、それぞれについて修得すべき単位数などの、単位修得の要件（「修得単位の審査の基準」）を定めています。「専攻に係る授業科目の区分」のいずれにも該当しない授業科目の単位は、「専攻に係る単位以外の単位」に区分されます。

それぞれの専攻において、どのような内容の授業科目の単位が「専門科目の単位」、「関連科目の単位」に該当するのかについては、「認定科目表」に示されています。また、特例適用専攻科及びその基礎となる本科（大学の学部（学士課程）4年間に相当する教育課程）の授業科目が、専攻の区分ごとの「修得単位の審査の基準」のどの「専攻に係る授業科目の区分」に該当するかについても、同様に「認定科目表」に示されています。

年度始めや学期始めの科目履修登録の際には必ず「認定科目表」を参照し、本校専攻科の修了要件を満たしているかという観点だけでなく、以下に示す学位授与機構が定める学位取得のための単位修得要件を満たしているかどうかを確認するようにしてください。

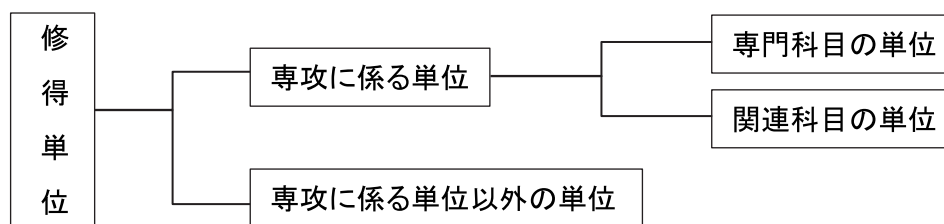


図1

3 単位修得の要件（「修得単位の審査の基準」）

本校学生が学位申請する際の専攻区分は、「機械工学」、「電気電子工学」、「情報工学」の3つの専攻区分です。申請にあたっては、単位修得の要件（「修得単位の審査の基準」）を満たすように単位を修得しなければなりません。

「専攻区分」は、特別研究の指導教員によって異なります。指導教員とよく話し合って履修方針を立ててください。特に、「情報工学」分野で学位申請する場合には、多くの条件を満たす必要がありますので、履修計画を立てる時に注意が必要です。

特例適用専攻科である本校学生の単位修得の要件は以下の(1)～(4)のようになっています。
この4つの要件をすべて満たすように単位を修得してください。

(1) 専攻科で修得する単位

特例適用専攻科を設置する高等専門学校学科（本科のこと）を卒業した後に、専攻科を修了するまでの2年以上にわたって在学する特例適用専攻科で授業科目を履修し、62単位以上を修得する必要があります（図A）。



図A

※学位申請時には専攻科修了までに修得見込みの単位を申告できます。

ただし、専攻科の最終学年で履修する「学修総まとめ科目」の単位を、在学する特例適用専攻科で31単位以上修得しなければなりません（図B）。

また、専門科目の単位と関連科目の単位をあわせて、「学修総まとめ科目」の単位を含めずに、在学する特例適用専攻科で40単位以上修得しなければなりません（図C）。



図B



図C

(2) 専攻に係る単位の修得

「専攻に係る単位」（専門科目の単位＋関連科目の単位）は、短期大学、高等専門学校の学科ですでに修得した専攻に係る単位とあわせて、

D 「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」

を満たし（p. 44～p. 46）、
かつ、**合計62単位以上**
となるように修得します（図 E）。

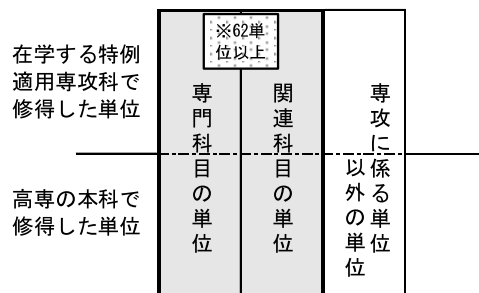


図 E

※ D 「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」

については（p. 44～p. 46）を参照してください。

(3) 専門科目以外の単位の修得

「専門科目の単位以外の単位」（関連科目の単位＋専攻に係る単位以外の単位）を、高等専門学校の学科（本科）ですでに修得した専門科目の単位以外の単位とあわせて**合計24単位以上**となるように修得します（図 F）。

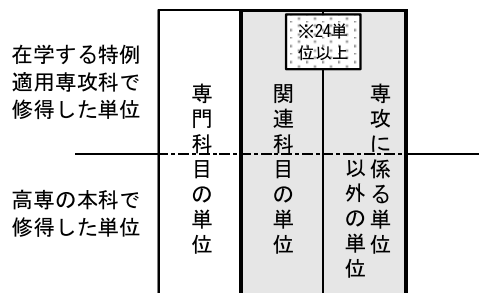


図 F

(4) 外国語の単位の修得

修得単位には、外国語の単位を必ず含まなければなりません。ここでいう外国語の単位とは、日本語以外の言語を教授することを目的としている授業科目の単位のことです。この外国語の単位は、高等専門学校の学科（本科）ですでに修得した単位、在学する特例適用専攻科の単位のいずれでもかまいません。

4 授与される学位と「専攻の区分ごとの修得単位の審査の基準」

授与される学位は「学士(工学)」になります。学位申請専攻区分ごとに求められる内容は次のとおりです。

① 機械工学

機械工学は、有用な機械を開発、設計、製造、運用、保守、廃却するために必要な技術の基礎となる広範な学問体系である。工学の分野で最も広い領域をカバーしており、最近ではコンピュータ、ソフトウェア、人間を含む生体の機能や心理的反応に関する知見を包摂し、地球環境保全対応も視野に入れつつ拡張されている。このため、学士レベルでは基礎をできるだけ幅広く学ぶことが求められる。また、実験・実習により、講義で得た知識を実際に確認することも必須である。

② 電気電子工学

エネルギー、情報、通信など人間社会に必要なシステムのために、主として電磁気、光及び電子現象を利用した技術を創出し、利用する学問体系が電気電子工学であり、材料・物性・素子からシステムまでの広範囲な領域に及ぶ。電気電子工学は、社会におけるパラダイムの変化をもたらす分野であり、その変化に対応した関連技術・分野も電気電子工学分野として進展している。このため、学士レベルでは基礎を広く、また、特定の分野を深く学ぶことが要求される。さらに、実験・実習により講義で得られた知識を実際に確認することが必須である。

③ 情報工学

情報の処理、蓄積、伝達などに関する技術は広範囲の学問分野で扱われているが、情報工学では特定の分野に依存しない情報技術そのものに主眼を置いている。情報工学の領域で学修されるべき事項は、情報に関する基礎理論、計算機システム、情報処理の方法、およびそれを支えるハードウェアを含んでいる。学士レベルでは、これらの事項をバランスよく学ぶことが求められる。

①「機械工学」

- 修得すべき専門科目と関連科目の単位(62単位以上)

専 攻 に 係 る 授 業 科 目 の 区 分	専門科目(40単位以上)	
	【A群 (講義・演習科目)】(30単位以上) ○機械材料・材料力学に関する科目 ○機械工作・生産工学に関する科目 ○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目 ○流体工学に関する科目 ○熱工学に関する科目 ○機械力学・制御に関する科目 ○知能機械学・機械システムに関する科目 【B群 (実験・実習科目)】(6単位以上) ○機械工学に関する実験・実習科目	左のA群の区分のうちから 4区分以上にわたること
	関連科目(4単位以上)	
	◇工学の基礎となる科目	
	◇工学および周辺技術等に関する科目	
	学修総まとめ科目	

(専門科目の例)

【A群 (講義・演習科目)】

○機械材料・材料力学に関する科目

材料力学、塑性学、弾性力学、破壊力学、材料弾性学、固体力学、金属組織学概論、強度設計学、機械固体物理、機械材料学、工業材料、構造制御学、材料機能システム学、材料強度論、材料評価学、連続体力学、計算力学、変形の力学など

○機械工作・生産工学に関する科目

機械加工学、加工の力学、精密加工学、特殊加工学、工作機械、加工計測、塑性加工学、成形の力学、生産工学、生産管理工学、CAD/CAM、生産システム学、生産自動化学、情報化生産工学、機械工作法、生産加工学、生産技術など

○設計工学・機械要素・トライボロジーに関する科目

機械要素学、機構学、信頼性工学、機械デザイン、設計工学、計算機援用設計(CAD)、潤滑工学、表面工学、トライボロジー、自動車工学、ビークル工学、宇宙・航空工学、船舶工学、機械設計、機構システム学、交通機械工学、機械創造学など

○流体工学に関する科目

流体力学、流体機械、流れ学、乱流工学、流体エネルギー変換工学、数値流体力学、気体力学など

○熱工学に関する科目

熱力学、応用熱力学、統計熱力学、伝熱学、伝熱工学、熱と物質の移動、熱物質移動論、輸送現象論、数値熱工学、燃焼工学、熱機関学、内燃機関工学、蒸気工学、熱エネルギー変換学、熱エネルギーシステム学、低密度エネルギー利用工学、原子力工学など

○機械力学・制御に関する科目

工業力学、機械力学、機械振動学、振動解析学、振動工学、音響工学、振動・音響制御、自動制御、制御工学、機械制御、デジタル制御、計測工学、機械計測、センサ工学、計測制御機器、振動波動学、油空圧工学など

○知能機械学・機械システムに関する科目

ロボット工学、ロボティクス、メカトロニクス、マイクロメカトロニクス、画像工学、機械知能学、人間・機械系、システム工学、人工知能、人間工学、知識工学、知能工学、認知工学、情報工学、生体工学、生物工学、医用工学、バイオメカニクスなど

【B群 (実験・実習科目)】

○機械工学に関する実験・実習科目

機械工学実験、材料力学実験、機械加工学実験、設計工学実験、流体工学実験、熱工学実験、機械力学実験、ロボット工学実験、機械製図、機械工作実習、ものづくり実習など

②「電気電子工学」

● 修得すべき専門科目と関連科目の単位(62単位以上)

専 攻 に 係 る 授 業 科 目 の 区 分	専門科目(40単位以上)	
	【A群 (講義・演習科目)】(30単位以上)	
	○電気電子工学の基礎となる科目(4単位以上)	
	○電気工学に関する科目	
	○電子工学に関する科目	
	○情報通信工学に関する科目	
	【B群 (実験・実習科目)】(6単位以上)	
	○電気電子工学に関する実験・実習科目	
	関連科目(4単位以上)	
	◇工学の基礎となる科目	
	◇工学及び周辺技術等に関する科目	
	学修総まとめ科目	

(専門科目の例)

【A群 (講義・演習科目)】

○電気電子工学の基礎となる科目

電磁気学、電気数学、回路網学、グラフ理論、電気回路、電子回路、電気・電子計測、通信計測、計測工学、システム制御工学、数理計画法、システム工学など

○電気工学に関する科目

電力発生工学、エネルギー工学、発電工学、原子工学、電力系統工学、電力システム工学、送配電工学、電気法規及び施設管理、電力応用工学、電気鉄道、照明工学、高電圧工学、電気材料、プラズマ工学、放電工学、絶縁設計工学、電磁エネルギー変換、電気機器学、電気機器設計法、電力制御機器工学、パワーエレクトロニクス、制御工学など

○電子工学に関する科目

固定電子工学、電子物性、半導体物性、半導体工学、誘電体工学、磁性体工学、電子材料、電子材料プロセス工学、アナログ電子回路、デジタル電子回路、パルス回路、計算機回路工学、論理回路、スイッチング回路、半導体デバイス、集積回路、電子デバイス工学、真空電子工学、プラズマ工学、電子部品・材料、センサー工学、光電子デバイス、集積デバイス、集積回路設計、量子電子工学、光波電子工学、光伝送工学、光回路工学、光エレクトロニクス、マイクロ波工学、光通信工学、電子機器学、電子通信機器設計法、応用機器工学、照明工学など

○情報通信工学に関する科目

音響工学、信号処理論、情報伝送工学、通信工学、電磁気応用工学、電磁波工学、応用電磁波工学、アンテナ工学、マイクロ波工学、レーザ工学、通信理論、情報通信工学、通信基礎論、信号処理、情報基礎論、画像工学、データ通信工学、通信伝送工学、通信方式、伝送システム工学、トラヒック理論、通信交換工学、通信網工学、電気通信事業法、通信法規、応用通信工学、電子通信機器設計法、通信機器、オートマトン、計算機アーキテクチャ、ソフトウェア工学、計算機プログラミング、電子計算機、オペレーティングシステム、計算機言語、コンパイラ設計論、データ構造、メモリー工学、データベース工学、計算機システム、情報数理、情報認識、組合せ、アルゴリズム理論、情報理論、データ通信、人工知能、応用情報工学、生体情報工学、情報システム論、システム数理工学、情報システム工学など

【B群 (実験・実習科目)】

○電気電子工学に関する実験・実習科目

③「情報工学」

- 修得すべき専門科目と関連科目の単位(62単位以上)

専 攻 に 係 る 授 業 科 目 の 区 分	専門科目(40単位以上)	
	【A群 (講義科目)】(30単位以上)	
	○情報工学基礎に関する科目(4単位以上)	
	○計算機システムに関する科目(4単位以上)	
	○情報処理に関する科目(4単位以上)	
	○電気電子・通信・システムに関する科目	
	【B群 (演習・実験・実習科目)】(6単位以上)	
	○情報工学に関する演習・実験・実習科目	
	関連科目(4単位以上)	
	◇工学の基礎となる科目	
	◇工学および周辺技術等に関する科目	
	学修総まとめ科目	

(専門科目の例)

【A群 (講義科目)】

- 情報工学基礎に関する科目

データ構造、言語理論とオートマトン、アルゴリズム、計算理論、情報理論、符号理論、スイッチング回路理論、信号処理、論理学、情報数学、離散数学(グラフ理論、組合せ論)、計画数理(OR、待行列)、情報倫理、著作権など

- 計算機システムに関する科目

プログラミング、プログラム言語、コンパイラ、オペレーティングシステム、デジタル回路、計算機アーキテクチャ、ネットワーク、情報セキュリティ、並列分散処理、ソフトウェア工学、データベースシステム、性能評価など

- 情報処理に関する科目

数値解析、計算科学、人工知能、機械学習、知識工学、エキスパートシステム、自然言語処理、音声処理、画像処理、パターン認識、シミュレーション、グループウェア、マルチメディア、ヒューマンインタフェース、データサイエンス、コンピュータグラフィックス、ロボティクス、生体情報処理など

- 電気電子・通信・システムに関する科目

電気回路、電子回路、集積回路、通信工学、システム制御理論、最適化論、計測工学など

【B群 (演習・実験・実習科目)】

- 情報工学に関する演習・実験・実習科目

5 学位申請の流れ

特例による学位申請の手続きは専攻科2学年次に行いますが、その手順の概略は以下に示すとおりです。基本的にはインターネットを利用した電子申請で行い、電子システムへの入力に申請受付時(※注)と修了確定時の2段階に分けて行います。申請者は必ず、当該年度に発行される『学位授与規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請案内』及び『特例による学位授与電子システム操作ガイド』等を入手し、それにしたがって学位申請手続きを進めてください(概ね以下の日程で進行しますが、当該年度の案内やガイドを参照してください)。

- ①基礎資格の確認 ※他高専からの入学生はみなし対象科目の事前確認手続きも必要となります。
↓
- ②単位の修得 ※単位修得の要件等(40ページ～46ページ)に適合するように単位を修得します。
↓
- ③学修総まとめ科目の履修計画書の作成(6月下旬)(※注)
↓
- ④申請受付時システム入力(※注) ※電子申請
↓
- ⑤学修総まとめ科目の成果の要旨の作成(1月下旬)
↓
- ⑥修了確定時申請(2月上旬) ※電子申請
↓
- ⑦学位授与機構の審査及び「可否」の通知(3月下旬)
↓
- ⑧学位授与機構から「学位記」送付(3月中旬) ※学校への一括送付
※不合格の場合は再度申請することができますが、特例適用専攻科を修了した場合は、従来の審査「修得単位の審査および学修成果についての審査ならびに試験による学位授与の申請」を行うことになります。

※注「10年間スケジュール」に記載のとおり、2024年度から申請方法が変更となるため、詳細が確定次第追って通知します。

6 学位申請に必要な情報や書類等

特例による学位申請に必要な情報や書類は次のとおりです。

※電は電子データ 書は書類データを表す

〔申請受付時システム入力(※注)〕

- ① 申請者基本情報(電)
- ② 学位授与申請書(書)→学校へ提出
- ③ 学位審査手数料受付証明書(書) ②に添付する ※2022年度は32,000円
- ④ 卒業証明書(書)1通→学校へ提出
- ⑤ 学修総まとめ科目履修計画書(電) ※PDFデータ化したもの
- ⑥ 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書(個表)(電) ※PDFデータ化したもの
- ⑦ 単位修得状況申告書(電)→(2023年度は変更の可能性あり)
- ⑧ 単位修得証明書(書) 高専本科・専攻科→(2023年度は変更の可能性あり)
- ⑨ みなし証明書(書) ※大学等で単位を修得した場合など→学校へ提出

〔修了確定時申請〕

- ⑩ 学修総まとめ科目成果の要旨(電) ※PDFデータ化したもの
- ⑪ 特例適用専攻科の修了証明書(書)→学校へ提出
- ⑫ 単位修得情報(電)→(2023年度は変更の可能性あり)
- ⑬ 単位修得証明書(書) ※学校が一括発行
- ⑭ 学修総まとめ科目の成績評価結果(電) ※PDFデータ化したもの ※学校側で入力

7 学修総まとめ科目履修計画書の作成

特例適用専攻科に在学していて修了見込みの学生が学位を申請する際には、最終学年に履修する「学修総まとめ科目」（本校では「特別研究Ⅱ」）について、「履修計画書」と「成果の要旨」を提出し、専攻区分における能力が学士の水準に達しているかどうかの審査を受ける必要があります。

「学修総まとめ科目履修計画書」には、「学修総まとめ科目」で自ら取り組んでいるテーマと、そのテーマの着想に至った背景、目的、手法・手段、内容（計画）・過程を、テーマの学修・探究を進める上で基盤となる他の授業科目の既履修状況と関連づけて、以下に示す書式にしたがって記述します。

また、「学修総まとめ科目」で設定したテーマと、そのテーマの学修・探究を支える自分自身のおおむね4年間（高等専門学校の学科＋専攻科）の学修全体について簡潔かつ明快に説明する必要があります。

「学修総まとめ科目履修計画書」は、A4判用紙2ページに2,400～3,000字程度で指定された項目および内容をワードプロセッサで記述し、PDFファイルに変換して電子申請によって提出します。PDFファイル以外のファイルは受理されないので、注意が必要です。

具体的には「様式（1a）」（51ページ～52ページ）に示す書式にしたがって、以下の項目を記述します。様式（1a）の各欄の大きさは適宜変更することができますが、全体で2ページを超えることはできません。また、全体の字数は2,400～3,000字程度とし、次の（1）

「「学修総まとめ科目」で取り組むテーマと学修・探究の計画」と（2）「「学修総まとめ科目」の学修・探究を支える学修全体について」との割合はおおよそ2対1の割合で記述するようにします。なお、申請時点での状況に基づき作成することになりますが、時制に注意して記述してください。

(1) 「学修総まとめ科目」で取り組むテーマと学修・探究の計画

◇ テーマ名および指導教員名

テーマ名については、「学修総まとめ科目」で取り組む学修・探究の内容を明確に示すテーマを記載してください。担当指導教員の「学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書(個表)」課題名とテーマ名を一致させる必要はありませんが、個表の課題名を踏まえて作成してください。

指導教員名について、履修計画書に併せて提出する「学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書(個表)」に記載されている教員が複数名である場合は、すべての教員名を記載して、主たる指導教員名に丸印を付してください。指導補助教員がいる場合は、すべての指導補助教員名を記載してください。

(1-1) テーマの着想に至った背景

学修総まとめ科目で取り組むテーマの着想に至った経緯を具体的に説明してください。また、当該テーマに関連する文献や資料等(既往の研究、先行研究)について概観し、当該テーマの意義や背景を説明してください。出典は必ず明示してください。

複数の者が共同して同一またはほぼ同一のテーマの学修・探究を進める場合には、その理由と自身の担当について自身の言葉で具体的に記述してください。

(1-2) 目的

「(1-1) テーマの着想に至った背景」の記載内容を踏まえて、学修総まとめ科目で取り組むテーマの目的を具体的に記述し、その意義を説明してください。

(1-3) 手法・手段

上記で述べた目的をどのような手法・手段を用いて達成するのかを説明してください。手法・手段を具体的に記述し、使用する材料、資料、あるいは調査対象などについて記述してください。必要に応じて装置図や手順を説明する流れ図等を用いてもかまいません。

調査や実験にあたり必要な倫理的配慮を行い、その内容を明記してください。

(1-4) 内容(計画)・過程

学修・探究の実施内容について説明し、どの時点でどこまで実施するのか、大まかなスケジュールも記述してください。

なお、学位授与申請の時点で学修総まとめ科目の履修が一定程度進んでいる場合は、申請時点での状況に基づいて記述し、かつ履修終了時まで何を達成するかを記述してください。

(1-5) 予想される結果・成果

学修総まとめ科目で取り組むテーマの学修・探究により、得られると予想される結果・成果を記載してください。また、実施にあたり予想される困難・障害があれば説明し、目的達成の見通しを記載してください。

[引用文献]

引用文献については「(1-5) 予想される結果・成果」の枠内末尾に番号を付してまとめて記載してください。

(2) 「学修総まとめ科目」の学修・探究を支える学修全体について

(2-1) テーマの学修・探究の基盤となる専門科目の学修

おおむね4年間（高等専門学校の本専+専攻科）の学修を振り返り、履修した（もしくは履修している）「専門的な内容の授業科目」（専門科目）の概要と身につけた力について具体的に記述し、「学修総まとめ科目」で取り組むテーマと、「専門科目」の学修との関連を説明してください。特にテーマの学修・探究を進める上で基礎となった専門科目、あるいは関係の深い専門科目については、具体的な授業科目名も記載してください。

(2-2) テーマの学修・探究に関係する関連科目の学修

履修した（もしくは履修している）「専門に関連する授業科目」（関連科目）の全体の概要と身につけた力について記述し、それらの授業科目で学んだ（もしくは学んでいる）内容が当該テーマとどのように関連するかを説明してください。特にテーマの学修・探究と関係の深い関連科目については、具体的な授業科目名も記載してください。

(2-3) 専攻に係る科目以外の学修専攻に係る科目以外でどのような授業科目を履修したか概要を述べ、特に興味を持った授業科目、および有益であったと考える授業科目について、具体的な授業科目名を記載して内容の概略を説明してください。

(2-4) 自分自身の4年間（高等専門学校の学科および専攻科）の学修全体の省察

これまでのおおむね4年間の学修で、どのような知識を学んだか、またどのような能力が得られたかを説明してください。また、専攻科修了までに身につけたい知識、能力について述べ、それを実現するための方策を説明してください。

8 学修総まとめ科目成果の要旨の作成

A4判用紙2ページに2,400～3,000字程度で「様式(2a)」(53ページ～54ページ)にしたがって以下の項目および内容を記述します。必要に応じて図、表を挿入してもかまいません。図、表を挿入した場合はキャプションを付し、これらを含めて全体をA4判用紙2ページ以内とする必要があります。また、様式(2a)の各欄の大きさは適宜変更できますが、全体で2ページを超えることはできません。また、全体の字数は2,400～3,000字程度とします。

◇ テーマ名および指導教員名

「学修総まとめ科目」で取り組んだテーマ名および指導教員名を記載してください。指導教員が複数名である場合は、すべての教員名*を記載して、主たる指導教員名に丸印を付してください。指導補助教員がいる場合は、すべての指導補助教員名*を記載してください。

(※履修計画書に併せて提出する学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書(個表)に記載されている教員名がすべて記載されるようにしてください。)

(1) 背景

学修総まとめ科目で取り組んだテーマの背景について記述してください。当該テーマに関係する文献、資料等(既往の研究、先行研究)を引用しつつ概略を説明してください。複数の者が共同して同一またはほぼ同一のテーマの学修・探究を進めた場合には、その理由と自身の担当について自身の言葉で具体的に記述してください。

(2) 目的

学修総まとめ科目で取り組んだテーマの目的と意義を具体的に記述してください。

(3) 手法・手段

用いた手法・手段を具体的に記述してください。実験を行った場合は用いた実験装置の主な仕様を記し、測定方法などを説明してください。シミュレーションや数値計算を行った場合は用いたソフトウェアの概略を記し、計算方法などを説明してください。調査研究の場合には調査の方法、対象などを具体的に説明してください。

(4) 内容

学修・探究の実施内容を具体的に記述してください。実験を行った場合は実験条件、用いた試料、データ解析の方法などを説明してください。シミュレーションや数値計算を行った場合は、計算条件、解析方法、用いたアルゴリズムなどについて説明してください。

「学修総まとめ科目履修計画書」に記述した計画・内容から大きな変更が生じた場合には、その理由、解決策等を記述してください。また、学修・探究の進捗に応じて「学修総まとめ科目履修計画書」に記載したテーマ名に修正が生じた場合は、修正した旨とその理由を記述してください。

(5) 得られた結果と考察・将来展望

得られた結果の概要を説明し、その結果に対する考察を行い、これらに基づいて学修・探究の結論をまとめてください。また、当該学修・探究では解決できなかった事項があればそれに対する解決策を考察してください。学修総まとめ科目で取り組んだテーマに関する将来展望についても記述してください。

[引用文献]

引用文献については「(5)得られた結果と考察・将来展望」の枠内末尾に番号を付してまとめて記載してください。

様式（1a）学修総まとめ科目履修計画書（※2頁以内）

学校名		専攻名	
専攻分野名称		専攻の区分	
氏名		学籍番号	
テーマ名			
指導教員名		指導補助教員名	

(1)「学修総まとめ科目」で取り組むテーマの着想に至った背景

○ 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

学修総まとめ科目で取り組むテーマの着想に至った経緯を具体的に説明してください。また、当該テーマに関連する文献や資料等（既往の研究や先行研究など）について概観し、当該テーマの意義や背景を説明してください。引用した文献や資料は出現順に文献番号を振り、「参考文献」にまとめて文献番号とともに記載して、その出典を必ず明示してください。以下の(2)～(4)においても連続した文献番号を振り、同様に記載してください。

なお、複数の者が共同して同一又はほぼ同一のテーマの学修・探究を進める場合には、その理由と申請者の担当部分について自身の言葉で具体的に記述してください。

(2) 学修・探究の目的

○ 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

「(1)「学修総まとめ科目」で取り組むテーマの着想に至った背景」の記載内容を踏まえて、学修総まとめ科目で取り組むテーマの目的を具体的に記述し、その意義を説明してください。

(3) 学修・探究の方法と計画

- 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

「(2)学修・探究の目的」をどのような手法・手段を用いて達成するのかを説明してください。手法・手段を具体的に記述し、使用する材料、資料、あるいは調査対象などについて記述してください。必要に応じて装置図や手順を説明する流れ図等を用いても構いません。

次に、学修・探究の実施内容について説明し、どの時点でどこまで実施するのか、大まかなスケジュールを記述してください。

なお、学位授与申請の時点で学修総まとめ科目の履修が一定程度進んでいる場合は、申請時点での状況に基づいて記述し、かつ履修終了時までには何を達成するかを記載してください。

倫理的配慮

- 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

調査や実験を行う上で必要な倫理的配慮（「倫理的配慮」の項^[1]、^[2]参照）について、その内容を具体的に明記するとともに、実施にあたって学内外の倫理審査委員会等に申請している場合には、その申請状況等について記載してください。該当がない場合にはその旨（「該当なし」など）を記載してください。

(4) 期待される成果

- 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

学修総まとめ科目で取り組むテーマの学修・探究によって、得られると期待される結果・成果を記載してください。また、実施にあたり予想される困難・障害があれば説明し、目的達成の見通しを記載してください。

参考文献

- 以下の記載内容を十分に確認し、履修計画書の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

(1)～(4)で引用した文献について、出現順に番号を付してまとめて記載してください。

[1]『学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請案内（令和5年度版）』（独）大学改革支援・学位授与機構（令和5年3月），p. 16.

[2]『新しい学士への途 学位授与申請案内 令和5年度版』（独）大学改革支援・学位授与機構（令和5年3月），pp. 20-22: https://www.niad.ac.jp/n_gakui/media-download/5948/7a397ed4625204b6/

様式（2a）学修総まとめ科目 成果の要旨（※3頁以内）

学校名		専攻名	
専攻分野名称		専攻の区分	
氏 名		学籍番号	
テーマ名			
指導教員名		指導補助教員名	

（1） 「学修総まとめ科目」で取り組んだ学修・探究の内容

（1-1）学修・探究の背景と目的 ○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。 この学修・探究で取り組んだテーマの背景について記述してください。<u>当該テーマに関係する文献や資料等（既往の研究や先行研究など）を引用しつつ概略を説明してください。</u>引用した文献や資料は出現順に文献番号を振り、「参考文献」にまとめて文献番号とともに記載して、その出典を必ず明示してください。なお(1-2)～(1-3)においても連続した文献番号を振り、同様に記載してください。 次に、この学修・探究で取り組んだテーマの目的と意義を具体的に記述してください。<u>複数の者が共同して同一又はほぼ同一のテーマの学修・探究を進めた場合には、その理由と自身の担当について自身の言葉で具体的に記述してください。</u>
（1-2）学修・探究の手法・方法 ○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。 この学修・探究で用いた手法・手段を具体的に記述してください。実験を行った場合は用いた実験装置の主な仕様を記し、測定方法、実験条件、用いた試料、データ解析の方法などを説明してください。シミュレーションや数値計算を行った場合は用いたソフトウェアの概略を記し、計算方法、計算条件、解析方法、用いたアルゴリズムなどを説明してください。調査研究の場合には調査の方法、対象などを具体的に説明してください。
倫理的配慮 ○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。 調査や実験を行う上で必要な倫理的配慮（「倫理的配慮」の項^{[1], [2]}参照）について、その内容を具体的に明記するとともに、実施にあたって学内外の倫理審査委員会等に申請した場合には、その承認状況等について記載してください。該当がない場合にはその旨（「該当なし」など）を記載してください。

(1-3) 得られた結果と考察、将来展望

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

得られた結果の概要を説明し、その結果に対する考察を行い、これらに基づいて学修・探究の結論をまとめてください。また、この学修・探究では解決できなかった事項があればそれに対する解決策を考察してください。学修総まとめ科目で取り組んだテーマに関する将来展望についても記述してください。

履修計画書から変更があった場合の理由および履修計画書に対する評価・コメントへの対応

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

「学修総まとめ科目履修計画書」に記載した計画・内容から大幅な変更があった場合には、その理由、解決策等を記載してください。また、履修計画書を再提出した場合やコメントが付された場合には、その対応についても記載してください。

参考文献

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

(1-1)～(1-3)で引用した文献について、出現順に番号を付してまとめて記載してください。

[1]『学位規則第6条第1項に規定する学士の学位の授与の特例に係る学位授与申請案内（令和5年度版）』（独）大学改革支援・学位授与機構（令和5年3月），p. 16.

[2]『新しい学士への途 学位授与申請案内 令和5年度版』（独）大学改革支援・学位授与機構（令和5年3月），pp. 20-22: https://www.niad.ac.jp/n_gakui/media-download/5948/7a397ed4625204b6/

(2) 「学修総まとめ科目」の学修・探究を支える学修全体について

(2-1) テーマの学修・探究の基盤となる専門科目の学修

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

4年間（短期大学または高等専門学校）の学修を振り返り、履修した「専門的な内容の授業科目」（専門科目）の概要と身につけた力について具体的に記述し、「学修総まとめ科目」で取り組んだテーマと、「専門科目」の学修との関連を説明してください。特にテーマの学修・探究を進める上で基礎となった専門科目、あるいは関係の深い専門科目については、具体的な授業科目名も記載してください。

(2-2) テーマの学修・探究に係る関連科目の学修

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

履修した「専門に関連する授業科目」（関連科目）の全体の概要と身につけた力について記述し、それらの授業科目で学んだ内容と当該テーマとの関連を説明してください。特にテーマの学修・探究と関係の深い関連科目については、具体的な授業科目名も記載してください。

(2-3) 専攻に係る科目以外の学修

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

専攻に係る科目以外でどのような授業科目を履修したか概要を述べ、特に興味を持った授業科目、および有益であったと考える授業科目について、具体的な授業科目名を記載して内容の概略を説明してください。

(2-4) 自分自身の4年間の学修全体の省察

○ 以下の記載内容を十分に確認し、成果の要旨の作成時にはこのテキストボックスごと削除してから記載すること。

これまでの4年間の学修を通じて、どのような知識を学んだか、またどのような能力が得られたかを説明してください。

専攻科 履修の手引き 2024

発行日 2024年3月27日

発行者 東京都立産業技術高等専門学校 専攻科
印刷 株式会社マステック
